



あいじつ



開校143周年

2024年・令和6年が始まります

校長 佐藤 郁子

新年おめでとうございます。まずは、1月1日に発生した能登地震におきまして、被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。

さて、今年の干支は「辰（竜）」です。12支の中で、唯一想像上の生き物です。権力や隆盛の象徴であることから、中国では古来より、皇帝のシンボルでした。

竜の姿は「竜に九似あり」と言われ、角は鹿、頭は駱駝、目は鬼、身体は蛇、腹は蟹（みずち※想像上の生き物）、鱗は鯉、爪は鷹、掌は虎、耳は牛に似ているようで、様々な動物の特徴をもっています。そして、「逆鱗に触れる」の諺の由来になったように、顎の下に1枚だけ逆さに生えた鱗があり、それに触れられると激昂するとされています。

その竜には9匹の子供がいたという逸話があります。9匹それぞれ、姿形や性格が異なります。9匹全部は書ききれませんが少し紹介します。9匹の子については、諸説ありますが、今回紹介するのは「升庵外集」によるものです。

鼯鼠（ひき）・・・亀に似ている。石碑を支える等、重いものを支える役割。

狴犴（へいかん）・・・虎に似ている。監獄の門で、悪人を裁く役割。

椒圖（しょうと）・・・貝に似ている。口を閉ざしているので、門の守り番の役割。

この他にも、あと6匹。姿形は、それぞれ異なります。また、それぞれが得意な役割も違います。9匹それぞれが、異なる姿形、性格で、自分の得意な分野で活躍をしますが、親である「竜」のようにはなれなかったという故事（「竜生九子不正竜」）もあるそうです。

皇帝のシンボルとして神格化された竜と親子であるために、比較されてしまうのは、子ども達にしては、何とも理不尽な話です。それぞれの場で、自分の力を発揮している竜の子ども達の姿は素晴らしいと思います。

辰年の今年、愛日小の子ども達が、それぞれ自分のよさを発揮して伸びていく一年になるよう、教職員一同精進いたします。

道徳授業地区公開講座

道徳部 山田 優希

1月20日（土）に道徳授業地区公開講座を行います。道徳の学習を通して、子ども達が自分の心で何を感じ、自分をどのように見つめているのか、よくご覧ください。子ども達の心は日々変化しています。学校生活の中のあらゆる場面において、道徳的な判断力や実践意欲を育てていきたいと思えます。

下記の時程をご確認ください。全学級、道徳授業公開は5時間目です。また、5時間目終了後、各教室で懇談会を行います。

【受付】 12時55分～

【5時間目】 13時10分～13時55分

【懇談会】 14時20分～15時

※5時間目終了後、5年生のみアリーナで合唱、リコーダー奏の発表を行います。その後、懇談会となります。

座書会・書初め展

担当 本村 文香

静まり返ったアリーナに漂う墨の香り。紙のこすれる音と呼吸を整える音。毎年、3年生以上がアリーナで行う席書会の様子です。ぴんと張った空気の教室では、低学年の子供たちが集中して鉛筆を動かしています。毎年1月に見られる光景ですが、12月の練習時とは緊張度や集中度が明らかに変わります。真剣なまなざしが、お手本と自分の紙とを行ったり来たりして、今書ける精一杯の字を書こうとする様子があります。

現代の日常生活では、文字そのものを書く機会が減り、多くの方は筆で文字を書くことはまずない、というのが現状です。しかし、筆文字は大事な日本文化、書初めも同様です。これからの未来を生きる子供たちに、席書会と書初め展を通して、日本文化のすばらしさの一端を感じてほしいと思っています。